山梨県神社庁報

かみがね

第161号（平成25年４月20日）

富士の国やまなし国文祭（藤木地域のどんと焼）

神社庁役員就任挨拶 …… 2～4
神社庁新役員一覧 …… 5
伊勢神宮関連 …… 6
まんが古事記（やまたのおろち） …… 7～9
祭典を斎行して …… 10
一都七県神社庁関連 …… 11
神社庁関連 …… 12
外部団体関連 …… 13
参議院議員 ありむら治子 …… 14～15
今後の予定・祭典日程 …… 16

役員就任挨拶

山梨県神社庁
庁長　根津泰昇

この度の臨時協議委員会に於いて推薦され、四月より山梨県神社庁庁長に就任いたしました。元より浅学非才の私でありますので、一抹の不安を感じておりますが、小佐野、佐々木両副庁長は全国区でご活躍されており、また、経験豊富な役員の方々が多数再任されておられることを心強く思っております。この役員諸兄と共に任期三年神社庁運営に微力ながら尽くさせていただく覚悟でございます。どうぞ、皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

前羽中田庁長は「尊皇愛国」「人の心の和」「思いやりの心」を基本方針の柱に四期十二年間に渡り斯界発展の為にご尽力下さり、衷心より敬意を表します。

前庁長の実績の第一は、神社会館建設です。構想から竣工までの八年間ご尽力いただきました。特に募財活動は、時代背景が低迷のなかでありましたが、特段の手腕により完遂なされました。

第二は、本宗と仰ぐ第六十二回式年遷宮の諸活動です。平成十八年、十九年に実施された「お木曳き」行事は多勢の参宮団を結集させました。本年八月に実施される「お白石持ち」行事では、募集定員を越える動員力を発揮されましたことは記憶に新しいところでございます。

この様に偉大な羽中田庁長の後での大任は、非常に荷の重さを感じております。前庁長の活動実績をけがさぬよう務めてまいりたいと思います。

本年度は、神社本庁が推進する「大神社展」の観覧がございます。この展覧会は第六十二回式年遷宮特別企画で、ご祭神の調度品である神宝や神像など神々の神道美術展であり、神道への知識を深めると共に遷宮行事機運を高めることを目的としております。神社本庁より山梨県には一五〇〇名の参加要請が届いておりますので、各支部長と連携を取りつつ目標達成に努めて参りたいと思います。

また秋には、遷宮後の参宮団の結成を予定しております。今回は、二十年前を上まわる二〇〇〇名以上の遷宮団の結成を目標といたしております。神職、総代、関係各位のご協力を賜わりたくお願い申し上げます。

神職奉務心得に、貞永式目の「神は人の敬によりて威を増し、人は神の徳によりて運を添ふ」という言葉があります。これは神社の修理、社頭の保護、祭祀の厳修を根本方針としたものです。

また、品性の保持、行学の研鑽、社会の教化、社頭の実務、道義と制約等の規律がございます。これらの精神を踏まえ、時代にそった新しい発展を求め、行学一致を指標にし、重責を努めて参ります。どうぞ、お力添え賜わりますようお願いを申し上げご挨拶といたします。

山梨県神社総代会
会長　中込豊秋

この度山梨県神社総代会長にご推挙を戴き身の引締る思いでご座居ます。浅学非才無力ですが精一杯その職責を果して参りますので先達各位のご指導を賜りますようお願い申し上げます。宮川睦武前会長には永年に亘り各般に多くの功績を残されなほ総代の先頭にたたれての積極的な活躍は私共に大きな力を与えて頂き有難うご座居ました。

私がこゝで日頃の思いのまゝを記すことをお許し下さい。私は日本人として日本に生まれたことを大変幸せに思う、それは天皇家の存在であります。大東亜戦後間もなく昭和天皇は礼装の上占領軍総司令官マッカーサーをご訪問され資産目録を携え〝国民には罪はない我身に替えて民を救って欲しい〟と申し出た。ネクタイも着けないマッカーサー司令官は己を恥、陛下を玄関先までお見送りした。（元帥回顧録）後に天皇家の存続を決断した。

今上両陛下も東北大震災各地をご訪問されなお膝をおとされ被災者の目線で手をとりお話されるお姿には私共まで心温まる思いでございます。

昨年暮近くの天皇誕生日の記者会見の折、記者の質問は〝ご高齢での難しい手術をどの様な思いでされました〟……陛下のお答は〝私は東北大震災の犠牲者の慰霊祭にどうしても出席したいのです〟とさりげなく語るお姿に、日頃は全く天皇家に無関心だった六十歳の友人は涙を押さえるのが大変だったと、ロータリー会長の挨拶のなかで話しておりました。大きな出来ごとの節目にその大きな存在を知る日本国に生まれたことを幸せに思います。

私はこの際二つのことを提案します。

（一）祝祭日は国旗を掲げよう。

国旗についてその歴史を確り学び、又海外で国旗の掲げてあるその数の多いのに驚かれた経験等を含めて身近の方々から説得されるとその数は必ず増えて参ります。関係者のご賛同を願います。

（二）後継総代育成

国の歴史伝統文化と併せて地域の伝統文化をも確り学ぶのも大切です。お祭りは古来より地域を中心とした絆づくりの目的もあり、地域の歴史を知ることから郷土愛も生まれると考えられる。人から人へと古き良き伝統文化を次世代に引継ぐ若者を導く努力に汗してこそ末永く伝承される。これは我々の役割でしょう。

変化の世相のなか変えなければならないこともあり、又変えてはいけないこともあります。古く永く続いた国は必ず良き伝統文化を確り守り、住み良い国だから国民は国を守る心が強いと思う。皆さん一歩前に進みましょう。

副庁長　小佐野　正　史

去る三月二十二日臨時協議員会に於いて、図らずも今後三年間に亘り副庁長の席をお預かりすることとなりましたが、元より浅学非才の身、責務の重さをひしひしと感じているところです。

扨、第六十二回神宮式年遷宮は今春、畏きあたりより遷御並びに諸祭の御定治を仰ぎ、愈々めでたくご斎行の秋を迎えようとしております。

本県にあっては式年遷宮の啓発・奉賛等、神宮大麻増体運動また、神社庁組織、規則等を見詰め直す時期に来ていると思われます。社会構造変化の中、先輩諸賢が築きあげられた神社庁業務、諸行事を基本的に受け継ぎ、これを完遂させることが私共の責務の第一と考えております。そうしてそれらの業務・諸事業・諸行事のさらなる展開を図り組織の充実に努めてまいりたいと存じております。

何卒各位には御協力・御支援の程をここにお願いし、はなはだ簡単ではございますが、ご挨拶を申し上げる次第です。

副庁長　佐々木　高　仁

去る三月二十二日開催されました臨時協議員会に於いて副庁長に選任されました。元より浅学非才にして、全く予想だにしなかった事であり、途惑しております。さいわい根津庁長は役員経験も豊富で実行力の勝れた庁長であり、小佐野副庁長も豊かな情報力と統率力をもっております。他の理事の方々も留任者が多く、その実績は証明済であります。このような理事の方々のご教導を賜りながら、この大役を努めてゆく所存であります。

当神社庁は庁舎の建設と神宮式年遷宮奉賛活動という二つの大きな事業を完遂致しました。これは神職・神社・総代が心を一つに合わせた事は勿論、氏子崇敬者の方々の赤誠溢れる御協力を頂いた結果であります。

私達はこのご協力に対して「お返し」をしてゆく責任があります。神社界としての「お返し」は、私達が敬神生活の綱領に基づいた神明奉仕をすることにより、広大無辺な御神徳を、氏子崇敬者の皆様にお伝えし、感応していただく事であると思います。

神社の運営は神社規則をはじめ諸規則・法律に基づいて行わなければならないのは勿論の事役員・総代の人達との信頼関係にも基づいたものでなければなりません。私達はこの事を肝に銘じて謙虚な神社運営に努めるよう確認したいと思います。

又、県内には宮司欠員神社が多数存在しております。解消に向けた対策を進める必要があります。

神社庁に奉職した経験を生かし、微力ながら勤めてまいりたいと思います。今後共ご指導賜りますようお願い申し上げご挨拶といたします。

神道政治連盟山梨県本部
本部長　佐々木　幸　永

過日の臨時代議員会に於いて本部長の重責を再度仰せつかる事となりました。心身ともに薄弱な老ぼれで在ります。皆様方のお力添え、特に副本部長・幹事長・代議員の先生方のご指導・ご鞭撻・ご協力を賜わらなければ席を穢すことはできません。宜しくお願い申し上げます。さて実現不可能なばらまき公約を掲げて選挙民を愚弄し政権についた民主党は、憲政史上例をみない最悪の集団だったように思われます。昨年の総選挙により、私たちが願って止まなかった、神道政治連盟国会議員懇談会長安倍晋三先生が総裁に就かれました。そして十二月の総選挙により、最悪の三年余りを脱却し多勢の人達が熱望しておりました安倍政権の再来となりました。希望に満ちた明るい見通しが約束されましたが、それは七月の参議院選挙によって確定するのでは無いでしょうか。神道政治連盟では自民党を支持し、応援し続けております。諸悪の根源となっている占領政策の現憲法を廃棄して自主憲法を制定する為にも、先ず三分の二以上の議席確保ができるよう、強力に協力して参りたいと思います。日本国は天子様の統治される国です。皇室の尊厳維持を始め、女性宮家反対の事、醜の御楯と昇華されました英霊顕彰の事、国旗国歌、教育の正常化問題、北方四島、竹島領有権の問題、尖閣諸島略奪を目論み領空領海侵犯を繰り返し、更には軍事力を増強し続け、威力を以て国の主権を脅かす支那の目に余る暴挙の問題等山積しております。懸命に対処したいと思います。又、昨年心有る県会議員先生方に依って、神道政治連盟山梨県地方議員懇談会を設立することが出来ました。先生方と共々に力を合せて、日本国の伝統と文化に則った国体の具現の為に邁進致したいと思います。昨年の総選挙の結果保守系の国会議員が皆無だった本県でしたが皆様のお力により四名の先生方が当選されました。近に国会議員懇談会に参加して戴けるよう働きかけを致します。

協議員会議長　桃井一祝

平成二十五年神社庁役員改選にあたり、去る三月二十二日開催の臨時協議員会に於いて、議長に指名され就任することになりました。微力ではありますが、よりよき議事運営に尽くしてまいりたいと思います。初心にたちかえりもう一期誠心誠意努力する所存です。

臨時協議員に於いて、議長として発言しました。庁規の見直し・内規の文書化等については、早急に検討しなければなりません。私案ではありますが、委員会をたちあげたいと思います。

さて神社界をとりまく環境は年々更に厳しくなっております。神社界を応援して下さる方も大勢いますが、氏子の神社離れ、総代任期の一年化・たらい廻し等多数の問題があります。我々神社界の回りの現実を直視する必要があります。

敬神生活の綱領の『まことの心を旨として』の精神に徹し、神社庁の諸事業が達成されますよう神社関係者各位のご理解とご協力を心よりお願い申し上げ、就任の挨拶といたします。

教化委員長　古屋真弘

過日の教化委員会において教化委員長に再任されました。委員及び事務局の経験が長いので、一都七県でも最も教化の経験が長い委員長ではないかと思っております。

前期においては「緑陰子供会」「親子参宮団」「遷宮パネル展」を柱に教化講演会、新聞広告等継続した事業を行って参りました。また、神道青年会のご協力を頂きながら、リニューアルを進めていた神社庁ホームページに青年会の皆さんがたいへんご苦労をされて発刊されて「新編山梨県神社誌」の内容を取り込む企画が完成し、四月から運用を開始しています。

今期の後半は神社界も少し落ち着いた時になろうかと思いますので、新しい教化事業を模索しながら、県内神職の皆様の奉務の一助になるよう委員の皆様と活発に活動をすすめて行きたいと考えております。

どうぞよろしくお願いします。

神道青年会会長　藤原永起

御遷宮の諸祭は恙無く執り行われ、陛下より御治定成され本年十月二日に内宮、五日に外宮にて遷御の儀が斎行されます。愈々荘厳にして厳粛なる大義奉仕の運びとなり、青年会と致しましても神職と致しましても心一つに奉仕申し上げ、大御心に副い奉る次第でございます。

さて、この佳節の御年、二月六日に開催されました臨時総会に於きまして、第十六代山梨県神道青年会会長として重責たる大役を仰せつかりました。元より浅学非才の身の上なれば、如何にしてこの大役を全う出来るか日々是精進するばかりで在ります。先輩諸兄の皆様が築き上げてこられた伝統と文化、時局を見極められた御活動に心より敬意を表すると共に、この脈々と受継がれてきた輝かしい実績を、更なる飛躍とするべく形に囚われぬ熱き〝こころ〟を継承し邁進する所存でございます。任期大尾には梨青創立六十五周年記念大会という大行事が控えております。役員はじめ会員共々一枚岩となり、事業を展開し諸準備に取組んで参ります。また、未だ復興がままならない東日本大震災による被災地への復興支援活動も継続していかなければならないと決意を新たにするところであります。

末筆に、これよりも山梨県神道青年会の活動に際しましては、倍旧の御理解と御協力を賜りたくお願い申し上げ、御挨拶とさせて頂きます。

神社庁新役員

平成二十五年四月一日～平成二十八年三月三十一日

庁　長　稲積神社　根津　泰昇
副庁長（冨士山小御嶽）神社　武田神社　佐々木髙仁
副庁長（本庁評議員理事）十五所大神社　深澤　哲夫
支部長理事　愛宕神社　小山　利行
〃　立石神社　髙原　左門
〃　若宮神社　志村　重治
〃　表門神社　市川　行治
〃　諏訪神社　齋藤　實
〃　逸見神社　森越　義建
〃　富士浅間神社　渡邊　主計
〃　春日神社　渡邊　學
（神政連本部長理事）福地八幡神社　佐々木幸永
（協議員会議長理事）美和神社　桃井　一祝
理　事（北口本宮冨士浅間）神社　上文司　厚
（教化委員長理事）浅間神社　古屋　真弘
（神青会長理事）若宮八幡宮　藤原　永起
（総代会長理事）玉諸神社　中込　豊秋
総代理事　鉾立神社　中田　欽哉
顧　問　浅間神社　古屋　眞孝
顧　問（山梨縣護國）神社　羽中田　進
監　事　若宮八幡宮　藤原　武男
監　事　諏訪神社　野田　武

協議員

甲府支部　愛宕神社　小山　利行
甲府支部　穴切大神社　秋山　忠也
甲府支部　御崎神社　上條　晃
甲府支部　玉諸神社　中込　豊秋
東山梨支部　立石神社　高原　左門
東山梨支部　古宮大神社　高野　英夫
東山梨支部　木宮神社　堀内　邦満
東八代支部　若宮神社　志村　重治
東八代支部　美和神社　桃井　一祝
東八代支部　檜峯神社　堀内　文蔵
峡南支部　表門神社　市川　行治
峡南支部　十五所大神社　深澤　哲夫
峡南支部　八幡神社　山本　純司
峡南支部　浅間神社　笠井　義仁
峡南支部　弓削神社　有泉　一征
峡中支部　諏訪神社　齋藤　實
峡中支部　笠屋神社　野中　陽
峡中支部　諏訪神社　野田　武
峡北支部　逸見神社　森越　義建
峡北支部　建部神社　石原　貞夫
峡北支部　鉾立神社　中田　欽哉
南都留支部　冨士浅間神社　渡邊　主計
南都留支部（冨士山小御嶽）神社　小佐野正史
南都留支部（北口本宮冨士浅間）神社　上文司　厚
南都留支部　佐々木三郎
北都留支部　春日神社　渡邊　學
北都留支部　福地八幡神社　佐々木幸永
北都留支部　福地八幡神社　奈良　俊一
庁長推薦　武田神社　佐々木髙仁
庁長推薦（大嶽山那賀都）神社　日原　盛幸
庁長推薦　桃園神社　村松　常男
庁長推薦　若宮八幡宮　藤原　武男
庁長推薦　八幡神社　藤本　嚴

教化委員

甲府支部　船形神社　上條　明宏
甲府支部　武田神社　乙黒　洋
東山梨支部　氷川神社　高野　正興
東山梨支部　八天宮社　今沢　茂則
東八代支部　浅間神社　古屋　真弘
東八代支部　比枝神社　津金八千代
峡南支部　一宮賀茂神社　稲葉　政信
峡南支部　表門神社　今村　和弘
峡中支部　山縣神社　塚川　宣行
峡中支部　諏訪神社　小野　修
峡北支部　駒ヶ嶽神社　今橋　武
峡北支部　若宮八幡宮　藤原　永起
南都留支部　小室浅間神社　渡邊平一郎
南都留支部　金山神社　金子　寿元
北都留支部　一宮神社　鈴木　晃
北都留支部　八幡神社　藤本　文彦
庁長推薦　武田神社　土橋　俊彦
庁長推薦　八幡神社　山本　純司
庁長推薦　十五所神社　篠原　敬逸
庁長推薦（北口本宮冨士浅間）神社　田邉　將之
庁長推薦　牛倉神社　中村　宗彦

総代会

会　長　甲府支部　中込　豊秋
副会長　峡北支部　中田　欽哉
副会長　東山梨支部　堀内　邦満
副会長　峡中支部　野田　武
副会長　南都留支部　佐々木三郎
理　事　甲府支部　千野　利雄
理　事　東山梨支部　駒井　賢一
理　事　東八代支部　堀内　文蔵
理　事　東八代支部　小林　久五
理　事　峡南支部　笠井　義仁
理　事　峡南支部　有泉　一征
理　事　峡中支部　滝口　肇
理　事　峡北支部　西川　貫一
理　事　南都留支部　渡邊　勝雄
理　事　北都留支部　奈良　俊一
理　事　北都留支部　棚本　佳秀
監　事　東八代支部　三井　晴則
監　事　峡北支部　清水　三郎
顧　問　甲府支部　宮川　睦武

神道政治連盟

本部長　福地八幡神社　佐々木幸永
副本部長　立石神社　髙原　左門
副本部長　稲積神社　小尾　武
幹事長　小室浅間神社　渡邊平一郎
議　長　穴切大神社　秋山　忠也
副議長　牛倉神社　坂本　丈一
綱紀委員長　逸見神社　森越　義建
綱紀委員　表門神社　市川　行治
綱紀委員　諏訪神社　齋藤　實
綱紀委員　住吉神社　小田切常雄
監査委員長　笠屋神社　野中　陽
監査委員　佐久神社　小林　久五
事務局長　酒折宮　飯田　直樹
顧　問　中尾神社　田村　弘正

お伊勢さん初参りに参加して

浅間神社氏子　植松由樹

一月二十日より二泊三日にて神社庁主催の神宮初参りが開催されました。神社庁長様を始めご関係の皆様四十名が参加し、私も初めて同行させて頂きました。

今年は名古屋・伊勢・京都を巡る行程と聞き、楽しみに当日を迎えました。まだ日も昇らず、手足を刺すような寒さの早朝よりバスに乗り込みこの旅が始まりました。途中、河口湖湖畔を通過中、御来光と共に黄金色に輝く富士山が姿を現すと、車内では一斉に歓声があがり富士山の美しさに魅了されました。山梨県を後にして先ずは名古屋城を目指し新東名を走っていると「山梨県から眺める富士山、静岡県から見る富士山、どちらが綺麗？」と言う話題になり、多数決の結果、山梨県が圧勝しました！

バスは何度か休憩をとりながら、名古屋城に到着。日曜日という事もあり大勢の人混みではありましたが、七階天守閣より一階ずつ下り拝観しました。次はいよいよ外宮です。神宮へは鶴岡八幡宮奉職時代に参拝して以来十二年振りでしたが、鳥居をくぐると当時の記憶が少しずつ甦ってきました。初めて神宮の神域に入った時の胸の高鳴りを思い出しながら各所を参拝、遷宮館も拝観しました。翌日の内宮参拝、神楽奉納、神宮の全てが神聖で身も心も洗われ、現在の御社での参拝はこれで最後かと思うと感慨無量な面持ちになりました。以前、「遷御後の御社は瞬く間に其の姿を変えて行く（朽ちて行く）」と聞いた事があります。今年は役目を終えた旧殿と新殿が並んだ姿を見る事が出来る貴重な年であり、其の姿を目に納めたく今から十一月の新穀感謝祭の旅行が待ち遠しくてなりません。

最終日は京都へ。伏見稲荷大社、南禅寺を参拝。小雨降る南禅寺方丈庭園の風情は格別で何枚も写真を撮り、湯豆腐も美味しく頂きました。道中お土産も沢山買い、とても充実した旅となりました。

最後に此の旅行で親しく接して下さいました皆様、有難う御座いました。

神宮大麻暦頒布終了祭並びに頒布春季推進会議報告

去る三月五日、神宮の外宮、内宮の特別参拝終了後、内宮神楽殿に於いて、鷹司大宮司様、高城少宮司様以下祭員により神宮大麻暦頒布終了祭が斎行された。神社本庁からは北白川統理様を始め田中総長以下理事の方々、全国神社庁から庁長、支部長代表、事務局が参列し、本県からは羽中田庁長、齋藤峡中支部長、主事の三名が参列した。終了祭に引続き大々御神楽が奉奏された。

続いて、神宮会館大講堂に移動して神宮大麻暦頒布春季推進会議が開催された。平成二十四年度神宮大麻暦頒布数やモデル支部制度の総括などの議案が議され、富山県と岡山県よりモデル支部制度についての意見発表があり、滞りなく会議は終了した。

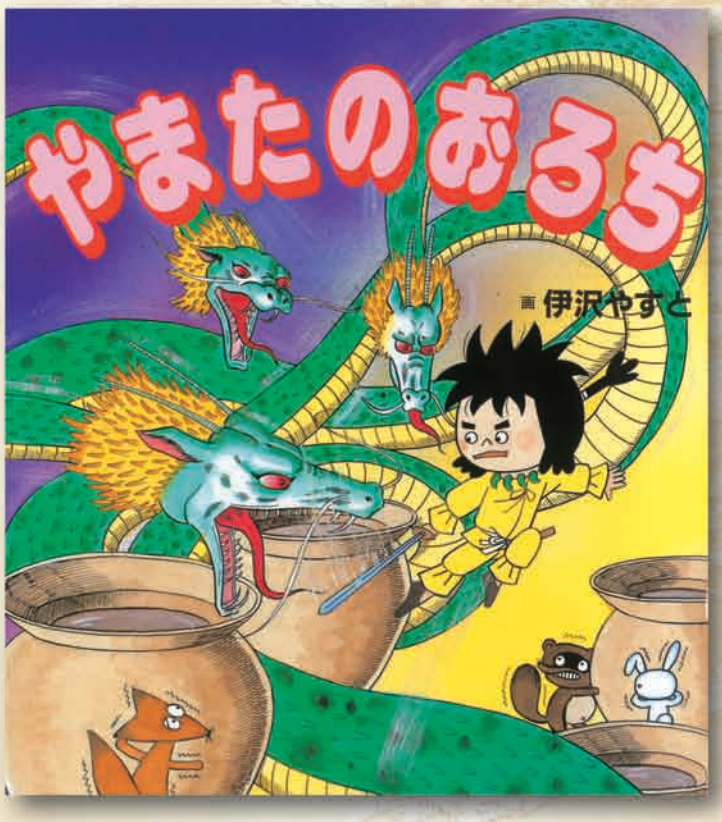
平成二十四年度大麻並暦頒布実績表

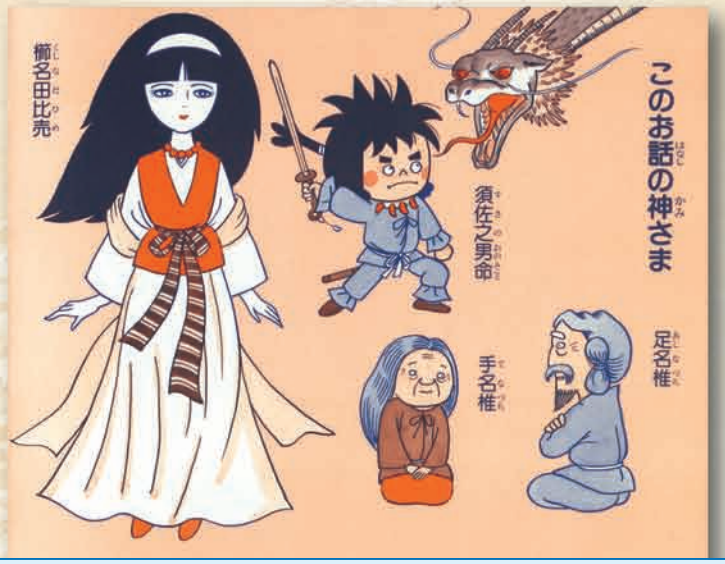
平成二十五年一月

支部	小大麻 頒布数	小大麻 増減	中大麻 頒布数	中大麻 増減	大大麻 頒布数	大大麻 増減	大麻合計 頒布数	大麻合計 増減	郷土暦 頒布数
甲府支部	17,200	＋ 70	1,403	－ 17	207	＋ 12	18,810	＋ 65	600
東山梨支部	13,552	－ 140	330	－ 36	173	＋ 8	14,055	－ 168	390
東八代支部	10,850	－ 231	420	＋ 14	92	－ 1	11,362	－ 218	445
峡南支部	9,338	－ 221	581	－ 5	252	＋ 3	10,171	－ 223	1,250
峡中支部	15,839	＋ 26	836	－ 6	36	－ 4	16,711	＋ 16	650
峡北支部	12,080	－ 272	381	＋ 6	50	＋ 3	12,511	－ 263	1,245
南都留支部	16,777	－ 146	3,517	＋ 162	891	－ 60	21,185	－ 44	6,450
北都留支部	3,520	－ 30	4,869	－ 113	227	－ 18	8,616	－ 161	1,880
神社庁扱	1,300	＋ 449		0		0	1,300	＋ 449	
合計	100,456	－ 495	12,337	＋ 5	1,928	－ 57	114,721	－ 547	12,910

まんが古事記

やまたのおろち（第四話）





「全国神社保育団体連合会」提供
問い合わせ　東京都渋谷区代々木一―一―一一
神社本庁内
電　話　〇三―三三七九―八〇一一
一冊　一二〇円

お子さん、お孫さんと、
神話の世界をお楽しみ下さい。

あらすじ

高天原でいたずらばかりしていた須佐之男命は、天照大御神さまのお教えによって、りっぱな神さまになるために旅に出られました。

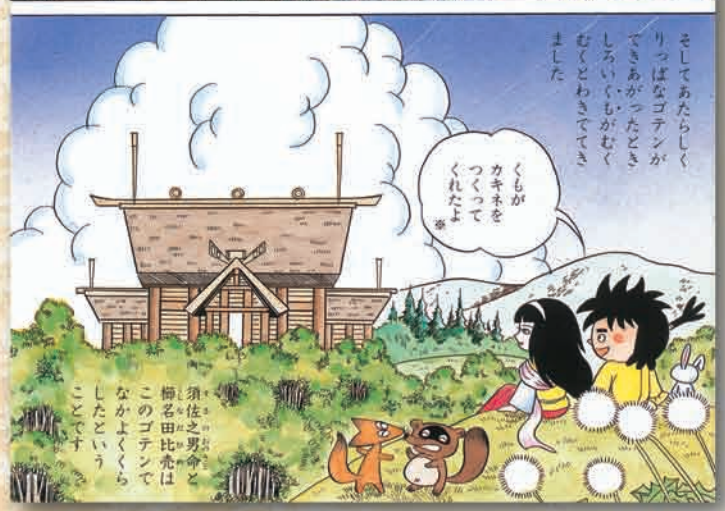
命が出雲国の肥の河のあたりまでこられると、上流より箸が流れてきました。命は上流にだれか住んでいると思い、川に添ってのぼっていくと、そこには足名椎・手名椎の神が娘の櫛名田比売をいだいて泣いていました。

そこで命は、足名椎からおそろしい八俣の大蛇の話を聞かされるのでした。

もうこれでこのくにもへいわになりますよ
ワーイ
ワーイ
ありがとうございました
パッ
そうだ櫛名田比売をもとにもどさなくちゃ
エーイッ

それから命と比売は出雲の国のなかでゴテンをたてるのによいところをさがしもとめました

須賀というところにきたとき
ああ――!! このところにきたらきもちがすっきりしたここにすむことにしよう


そしてあたらしくりっぱなゴテンができあがったとき しろいくもがむくむくとわきでてきました
くもがカキネをつくってくれたよ
須佐之男命と櫛名田比売はこのゴテンでなかよくくらしたということです

わが国の古典で最も古いものは、『古事記』・『日本書紀』です。今から一千三百年ほど以前にこれらは纏められました。

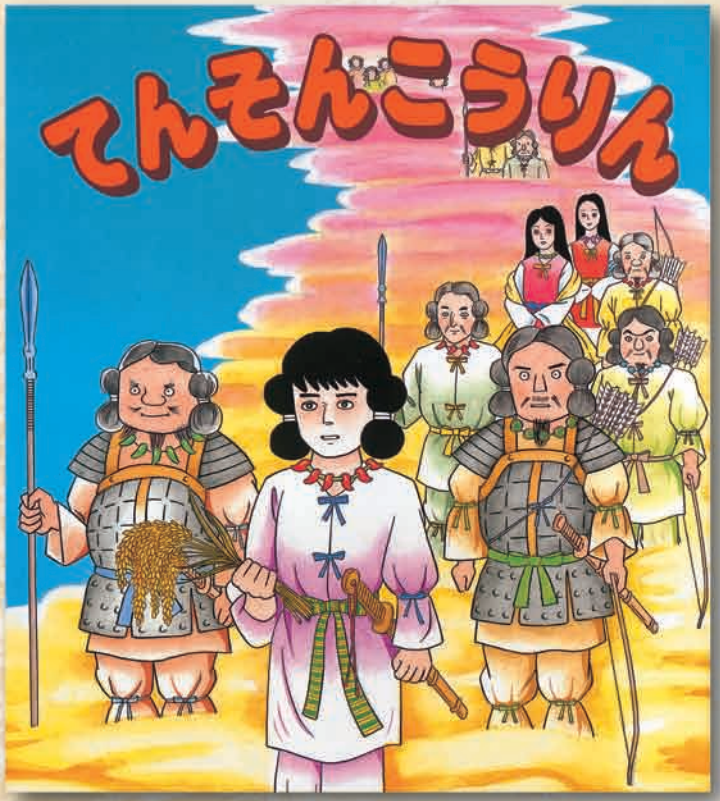
『古事記』は、天武天皇の命によって稗田阿礼が暗誦した神代からの伝承を、太安万侶という人物が書き上げ、和銅五年（七一二）に元明天皇に献ったものです。全部で三巻ありますが、このうち上巻は普通、日本神話と呼ばれているところで、天地のはじめから、神々の出生、皇室のはじまりまでが記されています。

此度漫画化した『やまたのおろち』は、『古事記』の中でも代表的な話で、出雲地方を中心とした神話伝承であるため、出雲神話とも呼ばれています。またこの神話は、三種神器の一つである草薙剣（くさなぎのつるぎ）の出現を物語るものとなっています。

三種神器とは申すまでもなく、八咫鏡（やたのかがみ）・草薙剣・八坂瓊曲玉（やさかにのまがたま）をいいますが、別に天璽（あまつしるし）とも総称されています。これらの神器は、皇位とともに伝えられてきました。

八咫鏡は、天照大御神さまが天の岩戸にお隠れになったときに、思兼神が諸神に命じて、大御神さまを岩戸からお出しするために鋳造したものです。現在、伊勢の神宮にお鎮まりになっています。またこの話にでてくる草薙剣は熱田神宮におまつりされています。

このように神話は単なる物語ではなく、私たちの祖先がどのような世界観・人生観をいだいていたのかを、これによって知ることができます。私たちの文化・伝統の根底にある、いわゆる日本民族の心を宿しているものが神話であるといえるでしょう。



※次号より「てんそんこうりん」を掲載いたします。

祭典を斎行して

美和神社

宮司　桃井一祝

「湯立祭」は「湯の花行事」「釜湯立」と称せられる神事で、上古、盟神探湯といって審判をくだしにくいとき、真偽正邪を決定する方法として湯に手を入れ、そのやけどの程度によって罪の有無や程度を決める神明裁判が行われていた。

湯は神意のこもるものとして神聖視されていた。湯立は釜に御湯を煮えくり返るまでわかし（中から湧き上がる湯玉を湯の花と称した）この湯を身にあび、もしくは身に振りかけることによって清まるという信仰行事である。

昔の人たちは忌みや穢れをひどく嫌った。忌みや穢れは人の命をむしばむものと考えられていた。

美和神社の湯立祭は社伝によると、元慶四年二月八日従四位を賜った時からとされている。現行は新暦二月八日に還暦厄除祈願祭が拝殿において斎行された後、神楽殿前の境内において斎行される。天狗の舞により四方を祓い清めた後、釜でわかした湯を湯ザサで、参列者に振りまいて、無病息災を祈る。

天狗の舞
（手〆・剣・太刀の舞）
湯之花行事（湯加持・清祓）

横近習大神宮

宮司　高原光啓

甲府に春を呼ぶ大神宮節分祭は、横近習町民総出の祭である。今年は休日にあたり天候にも恵まれ、大勢の方の参拝を頂いた。その多くは夜の追儺式が目当てで、鬼役は町内若衆が当たる。夕刻六時鬼達にその出番が来る。「鬼は外！」の福男福女の掛け声、豆打ちによって鬼は境外へ退散。再び社前に戻って又豆を受ける。これが撒き手の数だけくり返され結構重労働である。が、それが彼らの全てではない。鬼達の朝は早く、先ず神前での祓え、安全祈願の後、幼稚園老人ホーム等への出張がある。一方殿内では総代、役員、婦人会が全員で参拝者への対応に当たる。午後四時例大祭斎行、近在の児童による浦安の舞の奉納（渡邊禰宜の指導による）と続く。祭典の準備にあっては関係者との折衝等半年前から始まる。直前には町民参列の下頒布品の清祓が修される。とりわけ気を遣うのが奉仕員の触穢であり、その際は奉仕を慎み服忌の制に従う。

このように町内氏子の並々ならぬ敬神の心と実践により成り立っている。今後ともこの美風を守って行きたいというのが若輩宮司の切なる願いである。

穴切大神社

宮司　秋山忠也

「国文祭記念道祖神行事」どんど焼ｉｎ穴切と題し一月十三日に斎行した。

境内社である道祖神について詳しい資料は無いが明治五年の道祖神廃止令により穴切地区の辻々に祀られていた道祖神を集め社を建て祀ったものと思われる。

今回、斎行出来たのは、第二十八回国文祭、冬のステージで道祖神祭りがテーマとなっていることから、国文祭の担当者が県都中心部の穴切大神社に道祖神を祀っている社があることを知り開催を打診され表記の如く道祖神祭を再興することが出来た。

当日は準備した繭玉五百食もなくなる程、地域内外の氏子崇敬者が集った。

寒夜に高く燃上がる炎に繭玉団子を焼いて食べたり、習字の紙を燃やして上達を祈ったり無病息災を願っていた。

これを機に今後も道祖神祭を地域の伝統行事として続けていく所存である。

一都七県神社庁連合会総会報告

峡中支部長　斎藤　實

一都七県神社庁連合会総会が去る二月二十一日・二十二日栃木県日光市鬼怒川温泉「あさや」にて開催され本県からは根津副庁長以下十五名が参加、全体で二百二十名参加のもと開催された。

第一部総会は開会の辞、神宮遥拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和の後、次年度当番県の吉田茂穂神奈川県神社庁長が地元神社（日光二荒山神社）に朝厳しい寒さの中清清しく代表参拝を終えたことを報告され、当番県の石原敬士神社庁長が開催の挨拶を行った。

来賓の挨拶として北白川道久神社本庁統理から「山口祭から順調にとり行われ、愈々今年の十月御遷宮が斎行される。又式年遷宮の記念事業として開催される国宝大神社展は過去に例がなく、日本の神々に関する文化財を観る機会であります。」と述べられた。鷹司尚武神宮大宮司からは神宮大麻・神宮暦の頒布の御礼と黒田清子様が神宮の神嘗祭、新嘗祭、祈年祭と祭主を務められた報告があった。次に吉田茂穂神道政治連盟副会長より安倍内閣が誕生し「本来の日本を取り戻す」には参議院選挙で勝利し両院で勢力を結集することが必須であり、神政連では有村治子氏を推薦し、伝統文化を守ること。有村治子参議院議員は「日本の心を政治に」と決意を述べ神政連と共に活動していくことを各々述べた。

議事に入り一都七県神社庁連合会提出議案として栃木県神社庁より、神宮式年遷宮を奉祝し、国民総参宮と本庁包括下の神社における奉祝記念事業推進に関する件で「天照坐皇大御神の御神威顕現」と「全国神社での式年遷宮記念事業の推進」に向けて神職と総代は総力を挙げるとの提案があった。大会宣言は神宮大麻頒布推進と皇室の伝統護持に心血を注ぎ時局の問題に神政連と連携し速やかなる解決を図るとの宣言が採択された。

第二部の意見発表では茨城県から「神社写真コンテスト」について、年々応募数が増えるなか、第八回目にして初の統理賞受賞作品が有った。次に千葉県から「教員と兼務神職の経験と課題について」兼務神職の苦労話と今後の要望があった。栃木県からは「栃木県神社広報会議について」地方新聞に折り込み今年十三号「鎮守の森新聞」発刊、一般の人が興味ある内容になっており、神社を理解する新聞であった。神奈川県は「神社庁業務におけるインターネット活用について」神社庁と支部事務局間の業務を電子化する。今年四月から稼働開始の報告があった。翌日、日光二荒山神社と日光東照宮を参拝した。東照宮は四百年祭を控え修復工事が進められていたのを参観して帰路についた。

一都七県神政連本部長・幹事長事務局長会議報告

神政連山梨県本部幹事長　渡邊　平一郎

去る三月十三日、十四日神奈川県本部の当番により箱根町に於いて、一都七県神道政治連盟本部長・幹事長・事務局長会議が開催された。

次第により、石川当番県本部長、吉田当番県神社庁長の挨拶があり、来賓の打田神政連幹事長の祝辞に続いて、有村治子参議院議員の祝辞と合せて本年七月に行われる参院選への協力、応援の要請があった。二期十二年の実績と神政連唯一の統一候補として我々神社界の主義・主張と共に、我が国の為に全力を尽くす旨の決意であった。その後当番県本部長を議長として、①参議院議員選挙対策として五月二十七日に自由民主党本部にて時局研修会を開催すること、又その時の収支予算案を承認、決議した。続いて中央本部より昨年末の衆議院選の結果報告と参議院選の取り組みについて、皇室宮家制度に関する論点整理などの活動報告があった。次に群馬県、山梨県、東京都、埼玉県、茨城県、千葉県、栃木県、神奈川県の順で各地方本部の活動報告を行い休憩した。休憩後拓殖大学教授の濱口和久先生による「地政学の視点で見る日本の領土・領海問題」との演題の講演を拝聴した。先生は現在本籍を韓国との領土問題のある竹島に移していること、北方領土・尖閣にも百人程が本籍を移していること又在日米軍基地の七十五％が沖縄にあると言われているがこの根拠は一〇〇％米軍のみが使用している場合であり、自衛隊が共用で使用している基地を計算に算入すると二十五％になるなど違った視点での講演であった。次年度当番県群馬県挨拶と聖寿万歳の後閉会した。

神社振興対策
教化モデル神社報告

石和八幡宮
宮司　土橋　英

昨年四月より、第十三期神社振興対策教化モデル神社の指定を受け、諸活動や事業を行うこととなった。

これまでに地域と神社を結ぶために行って来た教化活動としては、例大祭奉納流鏑馬神事、地元小学校高学年の児童による浦安の舞奉納と舞姫の育成、又氏子による社殿と境内の清掃奉仕活動等が挙げられる。今回それらに加え、今後神社振興対策に相応しい事業活動として何をすべきであるか、氏子総代会と協議を行った。その中で、神社境内の東南角地（約六百平米）は、以前ゲートボール場として町内会愛好者が利用していた。しかし時代と共に利用者も減少し、ここ数年来不使用状態となっていた。そこで参拝者用駐車場として再利用してきたが、その一角につつじ花壇を造成して境内整備と桜祭り、つつじ祭り等四季それぞれの風情を活かした新たな祭事を行うことにより氏子を始め地域住民にとってより親しみ易い存在としての神社環境作りを目指すこととなった。

その過程において教化実践目標を定めるに当たり、神社を取り巻く環境を鑑み、日本の伝統文化の中で、地域社会における神社の果たすべき役割の再認識を行い、地域社会との絆をより深めるための啓蒙活動に特に力を注ぎたい活動として設定した。

現時点では、花壇の造成工事もほぼ予定通りの進行状況にて、問題点等特に無く、今後随時植樹を行う予定である。一年を経過し、地域活性化の為にも、年中祭事等を通じた神社の振興は欠かせないものであるとの意識が高まりつつある中で、今後諸事業を企画提案する上でも弾みにもなり、氏子の意識高揚にも繋がっていると思われる。

教化講演会報告

教化委員会
副委員長　中村　宗彦

去る二月八日、神社庁神殿祈年祭に引き続き恒例となっている教化委員会事業、教化講演会が開催された。

今回は、講師に陸上自衛隊部隊訓練評価隊長兼富士訓練センター長、一等陸佐、菅野茂先生をお招きし、「尖閣諸島の問題と我が国の防衛」をテーマに、専門家ならではの大変貴重なお話を伺うことができた。尖閣諸島に関しては、昨年九月の国有化以来中国の艦船による周辺海域での領海侵犯が繰り返され、それ以前にも増して厳しい緊張状態が続いており、微妙な時期であるからと事態を煽るような詳細なことにはあまり触れなかったが、職掌である隊員の訓練の話等を交えながら、映像も駆使しつつ国土防衛について説明があり、国民一人一人がもっと重大な危機感を持ってこの問題を考え、難局に立ち向かうべきであると諭された。

全く時宜に適した講演であった。

神宮式年遷宮パネル展開催

山梨県神社庁教化委員会では、去る三月二十一日から二十七日までの一週間、甲府市内岡島百貨店において、同百貨店が開催した「三重県物産展」にあわせ、式年遷宮パネル展を開催した。

これは、物産展の一角に遷宮広報委員会から写真をお借りし、山梨県で製作したパネル三十五点に説明をつけて飾付け、一目で遷御までのお祭りの数々が分かるように配置した。

来場者は平年よりも多い千人以上の方が来場し、会場係の教化委員に遷宮の事、神宮の事を尋ねる姿が多く見られた。

また、会場にはＤＶＤで遷宮広報ビデオを流し、遷宮の諸祭や装束神宝についての広報につとめたが、一時間近く見ている方もあり、興味ある方が多い事に感銘をうけた。

また、例年同様、神棚の祭り方のコーナーももうけ、広く大麻奉祭、神棚奉祭についての広報も行うことができた。

金華山復興支援活動

山梨県神道青年会
髙阪雄次

過日平成二十五年二月二十五日より同二十七日迄、当会田邉会長以下、根津副会長、藤原事務局長、今村監事、佐野広報部長、竹埜幹事長、私髙阪は千葉県神道青年会宮嵜会長と二県合同で震災復興支援に向かいました。今回の行先は宮城県牡鹿半島沖に位置する離島、金華山の鎮守、金華山黄金山神社です。震災から二年が経ち徐々に復興が進む中で、ここ金華山は地理的要因などもあり、復興が遅れています。同神社は金華山を始め牡鹿半島の観光の要であり、神社の復興がひいては牡鹿半島の復興に繋がります。そして今年は十二年に一度の巳歳御縁年にあたり、二二八日間にわたり盛大に大祭が執り行われます。

神社にとって非常に重要な「御縁年」、本来であれば多くの参拝者で賑わうこの大祭にむけて今、関係者の皆様は尽力されています。我々も微力ながら、少しでもお役に立ちたいとの思いで、復興支援に向かいました。

今回我々が従事したのは、この黄金山神社の奥宮の復旧作業です。金華山は船着き場や参道が陥没、境内も至る所に建造物の倒壊が見られるなど、被害甚大です。そして島の頂上、海抜四四五ｍに鎮座する奥宮もまた著しく損壊してしまいました。その奥宮の修理に必要な資材を担いで麓から登り、奥宮へと運搬するのが今回の作業です。重く大きな資材を担ぎ、残雪も多く険しい山道を登るのは容易でなく、相当な消耗でした。資材を担がずとも片道一時間以上かかる山道を二日間で四往復し、何とか作業を終えました。一往復、二往復と資材を運搬する度に宮大工の手により社としての形を取り戻していくのが見て取れ、達成感を感じることができました。

私は恥ずかしながら、今回初めて被災地を訪れました。メディアを通してではなく、初めて直接この目で見た被災地は、多くの人々の尽力や支援によって復興が進められていました。しかしながら、家族を失ってしまったこと、いつも通りの日常を失ってしまったことは、未だ被災地の人々の心の根本的なところに暗い影を落としていると感じました。被災地の復興は未だ遠く、多くの力を必要とします。これからも支援を続けていきたいと思います。

全国女子神職協議会 関東地区女子神職 研修会に参加して

山梨県女子神職会
会長　宮下富枝

去る三月五日、埼玉県の武蔵一宮神社に於いて関東地区女子神職研修会が開催されました。

まだ肌寒い日でしたが天候に恵まれ、十時半、参加者五十一名のうち県内から参加の四名をもって正式参拝、そして約二キロの参道を近況報告しながら研修会場の大宮ラフォーレ清水園に移動、昼食を摂り、十二時三〇分から開講式、一時から國學院大学教授・茂木貞純先生から「古事記と神道」と題してご講演を戴きました。

茂木先生曰く、古事記は長い歴史のなか、どのように係わって今日の日本文化があるかなど十四時半まで拝聴いたしました。

続いて、十四時四十分から「古事記」における「女性的なるもの」と題し、麗澤大学准教授岩澤知子先生のご講演となり。先生は、「古事記」が語る世界観を理解する早道として、西洋神話と比べながら十六時まで解りやすい説明を戴きました。

十六時三十分閉講式、来年度は、東京が開催予定地です。一年後又元気で参加できますことを合言葉に散会となりました。

神社界の皆様から賜った大切な学び

参議院議員比例代表（全国区）
神政連国会議員懇談会副幹事長
ありむら　治子

◎建国記念の日を迎へて

二月十一日、今年も日本各地で日本の建国を祝ふ行事が催され、多くの方が国の始まりの神話に想ひを馳せるとともに、天皇陛下を中心とした日本国家の繁栄が永続するやう気持ちを一つにされ万歳を三唱されました。皇紀二六七三年、神武天皇が奈良・橿原の宮で即位されてより、脈々と受け継がれてきた民族の営みの有り難さに自づから頭が下がります。

現在、世界に存在する約二百の国々の多くは、何らかの建国記念の日を設けてゐます。例へば、軍事政権を打倒した日や憲法制定の日、他民族の占領が終はり独立を勝ち取った日など、その由来は国家により様々ですが、国家存立の基盤、国の根幹に関はる最も大事な祝日です。

昨年の二月十一日、明治神宮会館で開催された「建国記念の日奉祝中央式典」に出席した際、開会前に当時の谷垣禎一・自由民主党総裁に「建国記念をお祝ひする日にこそ、（民間有志の善意に頼るだけでなく）政府主催の国民式典を開催すべきです。是非自民党の総裁として明言して頂きたい」と「直談判」しました。谷垣総裁は当初予定してゐた祝辞に急遽、その旨を盛り込んだ挨拶をして下さり、それもあって、自民党の政権公約に盛り込まれるところまできました。この公約を実現させてゆくことが、私の大きな目標の一つです。

◎神社界にご縁を頂いて

神社界の皆様からご指導とご支援を賜り、二期十二年、議席をお預かりさせて頂いてをります。神道政治連盟に推薦を頂き、質問に立つ機会を賜ったからこそ政府の意思決定に影響を与へることができた国会質問を三点ご報告申上げます。

一点目は、五年前の中国・北京五輪に関するものです。中国が、オリンピックを国威発揚の場に利用しようと目論み、狙ひを定めてゐたのが他ならぬ我が国の皇室でした。中国当局は、五輪開会式への皇族方の出席を日本政府に強く要請し、それを受け政府は皇太子同妃両殿下の訪中を検討してゐました。

その時、私が想起し、懸念したのは二十一年前の天皇皇后両陛下の訪中にあたっての経緯でした。当時の中国は天安門事件の後、自由主義諸国による経済封鎖によって、世界から外交的に孤立し、その状態を打破するきっかけを模索してゐました。そこで彼らが企図したのが、史上初となる両陛下の中国訪問でした。中国の思惑通り、両陛下の訪中後、制裁は徐々に解除されてゆきました。時の中国・外務大臣であった銭其琛は、その回顧録で「両陛下の訪中は日中両国関係にとどまらず、中国孤立の雪解けを進める効果があった」旨、得々と内幕を記してゐます。まさに皇室が中国によって、政治利用されてしまったのです。

私はこの事実に鑑み、皇族方の訪中を検討してゐる政府の姿勢を追及しました。この国会質問を産経新聞が一面記事で取り上げたこともあり、皇族の派遣見送りを決定づけることができました。

二点目は、昨年、民主党政権が企てた、いはゆる「女性宮家」創設に関する国会質問です。参議院予算委員会で、宮内庁に対し、「女性宮家創設が今上陛下のご意思なのかだうか」を質し、「陛下のご意思によるものではない」といふ明確な国会答弁を引き出しました。この国会質問が報道され、書籍等にも引用されることで、多くの方々に問題の本質をお伝へする契機の一つになった事は、大変有り難いことでした。

神社界をはじめ日本の安寧を心から願ひ行動される皆様と連携して、「皇室の権威」を守り、「安定的な皇位継承」を実現してゆく、さうした皇室の幾久しい弥栄を確かにしてゆく活動を重ねてゆくことが、神社界の皆様から賜ってをりますご支援に少しでも応へてゆく道だと自らに言ひ聞かせます。

三点目は、今から五年前に起きた映画「靖国」に対する文化庁の助成金の問題です。靖國神社が戦前から現在に至るまで一貫して日本の軍国主義化の象徴であるかのやうに描く、中国人監督が制作した映画に対して、文化庁が七百五十万円もの税金を投入し、支援したことが果たして適切だったのかだうか、その欺瞞と中国政府の歴史認識をそのまま踏襲する中国人監督の政治的意図を国会で取り上げました。「ドキュメンタリー映画」とうそぶいた映画のフィクションを暴き、靖國神社を大切に想ふ方々のプライバシーを踏みにじる、人として許されない身勝手な姿勢や撮影手法を糺しました。

私は、本来、靖國神社や全国の護国神社等、国難・戦時に殉じられた御霊を慰霊・追悼する場は、御霊と静かに心を向き合はせる静謐な場であるべきだと考へてゐます。自らの考へを声高に主張し、意見の異なる相手を威嚇するのは、御霊やご遺族に対して、極めて不遜なことです。

地域で根を張り、一定の信用力を持つ市井の私達こそが、本来あるべき戦没者慰霊の姿を、自らの日々の言動と行動で静かにそして着実に示し、共感の輪を広げてゆくことが重要なのだと考へます。先人が生きた証として紡いでこられた歴史を、美化することも卑下することもなく、謙虚に向き合ひ、国の未来を信じて、かけがへのない命を捧げた方々を心を込めて慰霊し、主権国家としての日本の良識を繋げる一助になりたいと強く念じてをります。

◎いよいよ、この夏決戦です

この二月の上旬、近畿地区二府四県の神社庁の皆様が中心となって下さり、四日間でそれぞれの府県で一回ずつ、計六回の「ありむら治子講演会」を開催して頂きました。

選挙に向けた初めての取り組みで、半年以上かけて日程の設定から会合の企画、告知パンフレットの作成など主体的に担って頂きました。「ありむらさん、共に頑張らう！」と温かくご芳情を向けて下さった同志の皆様が本当に有り難く、「戦友ここにあり！」と、戦ひ抜く力を与へて頂きました。

各府県において、参議院選挙の仕組みや投票方法について、ご質問頂くことが多かったので、ここに紙面をお借りして二点、謹んでご報告させて頂きます。

【①参議院の比例代表（全国区）は、予め当選順位を決めてをく名簿方式ではありません】

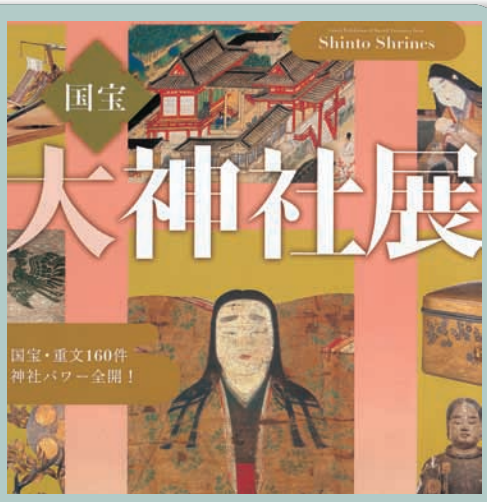
自民党の参院選公認が出てから、「ありむらさん、今回は名簿一位だから安心だね」といふお声掛けを随分と頂きます。しかしながら、この名簿は五十音順に基づく単なる候補者紹介名簿です。私が初めて当選させて頂いた平成十三年から、比例代表（全国区）選挙は、個人得票の多い人から当選してゆく新制度となってゐます。

【②「個人名」の得票数で当選が決まる】

前回の参院選後、多くの方から「ちゃんと比例も自民党って書いたよ」とお話頂きました。残念ながら、これらの票は「ありむら」の票としては一票にも数へられてをりません。参議院選挙では二枚の投票用紙が配られます。一枚目は各都道府県選挙区、二枚目が比例代表（全国区）です。この二枚目の投票対象となるのが、各政党から公認された比例代表候補です。この二枚目で、どれだけ「自分の個人名」の得票があったかが当選を決めます。是非とも二枚目には「個人名」での投票の徹底にお力を頂きたいと存じます。

◎これからもまっすぐに

日本の良識ある保守層を代弁される神社界の皆様から知恵や人脈を授けて頂き、敬神崇祖の念を持って国政の議席で発言できることは、本当に有り難いことです。そして、たとへ理解者が限られてゐても、本質を見極める努力を惜しまず、「天を仰いで神様と自分の生き方に対して偽りがなければ、人の道に外れることはない」と心から信じて活動できることは、生涯の糧、喜びとするところです。より多くの国民の皆様に、「日本に神道政治連盟があって良かった」「日本の次代を作ってゆくために、ありむらに力を貸してやって良かった」と、感じて頂ける日が一日も早く来るやう、力を尽くして参りたいと決意を新たに致します。



○靖國神社参拝、大神社展拝観旅行

毎年恒例となりました神道政治連盟山梨県本部主催の靖國神社・山梨縣護國神社参拝旅行ですが、本年は大神社展の開催にあわせ、左記の通り靖國神社参拝と「国宝　大神社展」の拝観旅行として実施致します。

山梨縣護國神社につきましては、役員にて日を改めて参拝致します。

記

一、日　時
　平成二十五年四月二十六日（金）

一、参加費
　八、〇〇〇円（玉串料・拝観料含む）

表紙写真説明

藤木道祖神　太鼓乗り

一月十四日の甲州市塩山藤木の道祖神祭は、江戸中期から「往来（ゆきき）」といって藤木三区で相互訪問のかたちでおこなわれた年頭の挨拶「お年始」に余興でおこなわれたのが太鼓乗りです。往来の行列は中学生が扮する道祖神を先頭に、万灯、鉦、大太鼓、みやげとして大八車に乗せた干支の作り物です。

大太鼓は直径約七十三センチ、胴長約一〇〇センチの締め太鼓で、その上で歌舞伎の一場面を演じるのです。今年も「安達原三段目」「三人吉三巴白波」が上演されました。近年この行事は放光寺駐車場に定めています。

祭典日程

4・21　穴切大神社春季大祭　御岳金櫻神社春季大祭（～二二日）富士河口湖町白山神社春季大祭
4・25　甲斐市長塚神社例大祭
　河口浅間神社例大祭（孫見祭）　勝山富士御室浅間神社春季例大祭（はな祭り）
4・28　甲斐市中下条松尾神社前夜祭
4・29　山縣神社神徳顕彰祭　甲斐市中下条松尾神社例祭　北杜市高根町舟形神社例大祭（祈年祭）
5・3　北杜市高根町熱那神社春祭　勝山富士御室浅間神社流鏑馬祭　大月市駒橋三嶋神社春祭
　稲積神社正木祭（～五日）　南アルプス市高尾穂見神社祈年祭
　山梨市大石神社例祭　山梨岡神社つつじ祭　身延町西嶋若宮八幡神社奥沢の祭　須玉町若神子諏訪神社祈年祭　北口本宮富士浅間神社初申祭
5・5　都留市石船神社春祭
5・6　市川大門町一宮浅間神社つつじ祭
5・9　大泉町逸見神社例大祭
5・12　甲斐市富竹新田神明神社例祭
5・17　本栖山神社例祭（公卿行列）
6・2　稲積神社御田植祭
6・29　甲府市中央甲斐奈神社大祓祭
6・30　穴切大神社夏越大祓　甲府市宮前町八幡神社みそぎ祭　甲府市東光寺山八幡神社みそぎ祭
　酒折宮夏越大祓　南アルプス市落合八王子社わっこぐり　南アルプス市吉田諏訪神社例大祭（祓祭）
7・1　北口本宮富士浅間神社富士山開山祭　富士山小御嶽神社富士山夏山開山祭
7・13　甲府市住吉神社夏季例祭（田植祭）
7・15　市川三郷町宮原浅間神社祇園祭　甲斐市島上条八幡神社例大祭（祇園祭）　山中湖村平野天神社天王祭
7・17　大嶽山那賀都神社甘酒祭（～一八日）